食品安全委員会第 208 回会合議事録

1 . 日時 平成 19 年 9 月 27 日 (木) 14:00 ~ 14:14

2 . 場所 委員会大会議室

3 . 議事

(1) 食品安全基本法第 24 条に基づく委員会の意見の聴取に関するリスク

管理機関からの説明について

・ 農薬 2 品目

プレチラクロール メフェナセット

(厚生労働省からの説明)

・ 遺伝子組換え食品等 L-フェニルアラニン

(厚生労働省からの説明)

(2) 食品安全基本法第 24 条に基づく委員会の意見の聴取について

・ 農薬「クロルフェナピル」に係る食品健康影響評価について

・ 遺伝子組換え食品「除草剤グリホサート耐性ダイズ MON89788 系統 (食品) 」に係る食品健康影響評価について

(3) その他

4 . 出席者

(委員)

見上委員長、小泉委員、長尾委員、野村委員、畑江委員、廣瀬委員、本間委員

(説明者)

厚生労働省 國枝基準審査課長

(事務局)

齊藤事務局長、日野事務局次長、大久保総務課長、北條評価課長、西村勧告広報課長、酒井情報・緊急時対応課長、小平リスクコミュニケーション官、猿田評価調整官

5．配布資料

資料 1 - 1 食品健康影響評価について

資料 1 - 2 「プレチラクロール」及び「メフェナセット」の食品安全基本法
第 24 条第 1 項に基づく食品健康影響評価について

資料 1 - 3 L-フェニルアラニンの申請概要

資料 2 - 1 農薬に係る食品健康影響評価に関する審議結果について

資料 2 - 2 遺伝子組換え食品等に係る食品健康影響評価に関する審議結果について

6．議事内容

見上委員長 ただ今から食品安全委員会第 208 回会合を開催いたします。本日は 7 名の委員が出席です。また、厚生労働省から國枝基準審査課長に御出席いただいております。

それでは、お手元にございます食品安全委員会第 208 回会合議事次第に従いまして本日の議事を進めたいと思います。

まず、議事に先立ちましてお手元の資料の確認をお願いします。本日の資料は 5 点でございますが、一部の資料は番号のみの読み上げとさせていただきます。

資料 1 - 1 が「食品健康影響評価について」。

その関連資料として資料 1 - 2 及び 1 - 3。

資料 2 - 1 が「農薬に係る食品健康影響評価に関する審議結果について」。

資料 2 - 2 が「遺伝子組換え食品等に係る食品健康影響評価に関する審議結果について」でございます。

不足の資料等、ございませんでしょうか。

それでは、議事に入らせていただきます。

最初に「(1)食品安全基本法第 24 条に基づく委員会の意見の聴取に関するリスク管理機関からの説明について」でございます。資料 1 - 1 にありますとおり厚生労働大臣から 9 月 25 日付けで農薬 2 品目、9 月 21 日付けで遺伝子組換え食品等 1 品目について食品健康影響評価の要請がありました。厚生労働省の國枝基準審査課長より説明がありますので、よろしく願いいたします。

國枝基準審査課長 それでは、資料 1 - 2 と資料 1 - 3 に基づきまして御説明を差し上げたいと思います。

まず資料 1 - 2 を御覧いただきたいと思います。「『プレチラクロール』及び『メフェ

ナセット』の食品安全基本法第 24 条第 1 項に基づく食品健康影響評価について」でございますが、プレチラクロールにつきましては、本年の 9 月 11 日付け、メフェナセットにつきましては、本年の 8 月 29 日付けでそれぞれ魚介類に関する基準値設定の要請があった旨、農林水産省より連絡がございました。

これらの剤につきまして、食品中の残留基準値の設定の検討を開始するに当たり、食品安全基本法の 24 条 1 項に基づいて、食品健康影響評価を依頼するものでございます。

評価依頼物質の概要でございますが、まずプレチラクロールにつきましては、本薬は除草剤ということで、これは葉芽部及び葉根部より吸収されて葉芽部の伸長抑制、根及び地下茎の発生又は伸長を抑制し増殖を抑えるというもので、長鎖脂肪酸の生合成系の酵素を阻害することなどが作用点とされているものでございます。

現在、稲に農薬登録がございまして、米について食品衛生法に基づく残留基準が設定されております。今回、魚介類への残留基準の設定が申請されているものでございます。JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されておられません。

次にメフェナセットでございますけれども、本薬は除草剤ということでございまして、作用機構につきましては充分には解明されておりませんが、根部先端の成長点及び地上部成長点に作用して植物の生育を停止させ枯死させるというものでございます。

現在、稲に登録がございまして、米について食品衛生法に基づく残留基準が設定されております。今回、魚介類への残留基準値の設定が申請されたものでございます。JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されておられません。

今後の方向ということでは、食品安全委員会での食品健康影響評価の結果を受けた後に、薬事・食品衛生審議会において、これら農薬の食品中の残留基準設定等について検討することとしております。

引き続きまして、資料 1 - 3 を御覧いただきたいと思います。

L フェニルアラニンでございますけれども、本品目は生産効率を高めるために大腸菌の K-12 株由来の変異株に同株由来の L フェニルアラニン生合成に関与する遺伝子を導入することで作製しました PHE-No.1 株を用いて生産された L フェニルアラニンでございます。

申請者は本品目が高度に生成されていることから、遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうちアミノ酸などの最終産物が高度に生成された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方の要件を満たしているとしております。

このたび、これについて御評価をお願いするものでございます。

以上です。

見上委員長 どうもありがとうございました。

それでは、ただ今の説明の内容あるいは記載事項につきまして御意見、御質問がございましたらよろしく願いいたします。よろしいですか。

それでは、農薬 2 品目につきましては、農薬専門調査会において審議し、遺伝子組換え食品等 L フェニルアラニンにつきましては、遺伝子組換え食品等専門調査会において審議することといたします。

次の議事に移らせていただきます。

「(2) 食品安全基本法第 24 条に基づく意見の聴取について」でございます。農薬 1 品目及び遺伝子組換え食品 1 品目に係る食品健康影響評価につきましては、専門調査会における審議、意見・情報の募集の手続が終了いたしております。

それでは、農薬クロルフェナピルにつきまして、事務局から説明願います。

北條評価課長 それでは、資料 2 - 1 に基づいて御説明いたします。

クロルフェナピルでございますけれども、評価書の 3 ページのところに記載がございますように、1996 年 4 月 25 日に初回農薬登録がされております殺ダニ剤でございます。今回、農林水産省から、いちご、とうがらし類などに対します適用拡大の申請がございまして、それに伴い食品健康影響評価の要請があったものでございます。

併せて、クロルフェナピルにつきましてはポジティブリスト制度導入に伴いまして、いわゆる暫定基準が設定をされているという関係がございまして、法第 24 条第 2 項の諮問につきましても併せて行われているものでございます。

食品安全委員会につきましては、農薬専門調査会におきまして 3 回御審議をいただきまして、評価書案をまとめていただきまして、それにつきましては本年の 8 月 9 日から 9 月 7 日まで国民からの意見・情報の募集を行ったものでございます。

結果につきましては、最後のページにお示ししますとおり、期間中に意見・情報というものがございますませんでした。したがって、このものにつきましては調査会の結論と同じでございますけれども、クロルフェナピルの一日摂取許容量を 0.026mg/kg 体重/日と設定するという結果を関係機関の方に通知したいと考えております。

以上でございます。

見上委員長 どうもありがとうございました。

それでは、ただ今の説明の内容あるいは記載事項につきまして御意見、御質問がございましたらよろしく願います。

北條さん、今ちょっとこれを見ながら経緯を見たんですけれども、適用拡大はいちごと
とうがらしとおっしゃったんですけれども、その後の2007年3月15日にかぶ、さやえん
どう等と書いてあるでしょう。

北條評価課長 これも合わせまして申請がなされています。説明のところでは省略をさ
せていただきまして、いちご、とうがらし等というふうにここを包括した形で御説明を申
し上げました。

見上委員長 でも、いちご、とうがらし等は既に終わったという解釈ではないんですか。

北條評価課長 これと合わせて追加で更に適用拡大の申請がなされているわけです。

見上委員長 そういうやり方でくるわけですか。なるほど。

北條評価課長 幾つかのパターンがありまして、1回委員会において評価が終了した後
に適用拡大の申請がくる場合と、このように審議の途中で追加的にくる場合があるという
ことです。

見上委員長 分かりました。外に何かございませんか。よろしいですか。

それでは、本件につきましては農薬専門調査会におけるものと同じ結論となりますが、
クロルフェナピルの一日摂取許容量を0.026mg/kg体重/日と設定するというところでよろし
いでしょうか。

(「はい」と声あり)

見上委員長 それでは、続きまして遺伝子組換え食品除草剤グリホサート耐性ダイズ
MON89788系統(食品)につきまして説明願います。

北條評価課長 それでは、資料2-2に基づきまして御説明いたします。

ダイズMON89788系統はシキミ酸経路を触媒する酵素を産生する遺伝子を導入して作製
された組換えダイズでございまして、除草剤グリホサートの影響を受けずに生育できると
されているものでございます。

評価書の1ページにございますように、平成19年2月19日に厚生労働大臣から遺伝子
組換え食品の安全性確認に係る食品健康影響評価について要請がございまして、食品安全
委員会におきましては遺伝子組換え食品等専門調査会において3回御審議をいただきまし
て、その評価書案につきまして本年の8月23日から9月21日まで国民からの意見・情報
の募集を行ったものでございます。

結果につきましては最後のページに記載してございますように、期間中に意見・情報と
いうものが寄せられなかったということでございます。なお、その上の方に記載してござ
いますように、前回提出させていただきました評価書中に一部誤記がございましたので、

この点につきまして修正させていただいた上で、結果といたしましては専門調査会の結論と同じでございますが「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に基づき評価した結果、人の健康を損なうおそれはないものと判断されたという結果を関係機関に通知したいと考えております。

以上でございます。

見上委員長 どうもありがとうございました。

それでは、ただ今の説明の内容あるいは記載事項につきまして御意見、御質問がございましたらよろしくお願いたします。よろしいですか。

それでは、本件につきましては遺伝子組換え食品等専門調査会におけるものと同じ結論となりますが、遺伝子組換えダイズ除草剤グリホサート耐性ダイズ MON89788 系統については、遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準に基づき評価した結果、人の健康を損なうおそれはないものと判断されたということによろしいでしょうか。

（「はい」と声あり）

見上委員長 今日は何か早く終わってしまってあれですけども、外に議事、議題はありますか。

大久保総務課長 特にございません。

見上委員長 ありがとうございました。それでは、本日のすべての議事は終了いたしました。以上をもちまして食品安全委員会第 208 回会合を閉会いたします。

次回の委員会につきましては 10 月 4 日木曜日 14 時から開催を予定しておりますので、お知らせいたします。

また、明日 28 日金曜日 10 時から、添加物専門調査会が公開で開催。

14 時から、動物用医薬品専門調査会確認評価部会が公開で、引き続き、動物用医薬品専門調査会が公開の後に非公開で開催。

来週、10 月 2 日火曜日 10 時から、汚染物質・化学物質専門調査会が公開で開催。

3 日水曜日 14 時から、農薬専門調査会幹事会が公開で、引き続き、総合評価第一部会が非公開で開催される予定となっております。

どうもありがとうございました。

以上です。